

血圧

要治療と判定された方は必ず内科を受診してください。

ただし、医療機関での血圧測定は、緊張で日常より高めになってしまうことがあります。

日常血圧を測定されていない方はご家庭でも図りましょう。血圧計は上腕血圧計がおすすめです。

心電図

心臓の筋肉に流れるわずかな電気を波形として記録します。

不整脈、心肥大、狭心症・心筋梗塞などの心臓の状況をみています。

所見ありの場合でも、病的でないことがほとんどですが、要受診の判定になっているときは必ず循環器科を受診してください。

眼底検査

眼球の奥にある網膜の血管が、高血圧や動脈硬化などで細くなったり出血していないかを調べます。

また、網膜剥離や眼底出血、緑内障など、眼科の病気の発見にも役立ちます。

眼圧検査

眼圧が高い場合は緑内障が疑われ、低い場合は網膜剥離などが疑われます。

胸部レントゲン検査

肺がん、肺のう胞などの肺疾患のほか、心拡大の有無や大動脈の病気を調べる検査です。

肺機能検査(スパイログラム検査)

最大限息を吸って吐きだし、肺の機能を調べます。

- %肺活量

予測肺活量に対して80%以下は、拘束性障害（肺の膨らみが悪い状態：肺線維症など）が考えられます。

- 1秒量

70%以下は閉塞性障害（空気の通り道が狭い状態：喘息など）が考えられます。

上部消化管検査

① X線検査（バリウム検査）

発泡剤とバリウムを飲んで、食道・胃・十二指腸までの上部消化管を造影し、X線撮影する検査です。

② 内視鏡検査

鼻または口からカメラを挿入し、直接、食道・胃・十二指腸の観察をする検査です。

病変があった際は、組織の一部を直接採取（生検）することにより、良性か悪性かの鑑別診断ができます。

腹部超音波検査

人体に無害で、人の耳には聞こえない周波数の高い音の振動波をあてて、肝臓・膵臓・胆のう・腎臓・脾臓・大動脈について、腫瘍や石の有無、脂肪肝や動脈硬化などを調べる検査です。脂肪肝、胆石・胆のうポリープや腎結石のほか、肝腫瘍や腎腫瘍、膵腫瘍が見つかることがあります。

【尿検査・便検査】

尿検査

① 尿潜血：陽性の場合、腎疾患、尿路結石、膀胱炎などが疑われます。

② 尿蛋白：陽性の場合、糸球体腎炎や糖尿病性腎症が疑われます。発熱や疲労で一時的に陽性になることがあります。

③ 沈査：尿を遠心分離にかけ沈殿物を調べます。腎臓・尿路系の病気や部位の推測に役立ちます。

便潜血検査

消化管からの出血がないか調べる検査で、大腸がんの早期発見が目的です。

肉眼では確認できない微量の出血も知ることができます。